

<ねらい>

- ・ ロールプレイを通じて児童労働（家事使用人として働く少女）には複雑な背景※があることを知る。 ※児童労働の背景には貧しさだけでなく、子どもが働くことが当然と考える文化や親の知識不足なども関係する。
- ・ 少女、少女の周辺にいる人たちの考えや思いを知る。

<すすめ方>

- ① グループ分けをし、ロールプレイシナリオのカードを配る。資料を使って、登場人物、話し合いの背景を説明する。ロールプレイの役割を分担し、自分の役のシナリオを読む。（※7人いない場合は、校長先生の役割を抜かず、または一人二役とする）
- ② 父親が進行役となり、グループごとにルビナを家事使用人として働きに出すかどうかの話し合いをする。
1巡目は役になりきって意見を言う（シナリオを読む、ルビナの幸せについてその役割で話す、役になりきって意見を交わす）。
→どのような話し合いになったのか、全体で聞き、いくつかのグループにこたえてもらう（ルビナを家事使用人として働きに出すことがすぐに決まったか、条件付きになったか、議論になったことは何かなど）。
- ③ 2巡目は演じてみてどうだったか、役を離れて個人としての感想や意見を言う。
→いくつかのグループにこたえてもらう。
- ④ ロールプレイを通して、気づいたことや感想を各自書き出し、共有する。問題解決のためのアイデアを出し合ってもいい。
 - ・ それぞれの役を演じてみて感じたことや印象に残ったこと
 - ・ ロールプレイ全体から気づいたバングラデシュの社会状況、子どもたちを取り巻く状況、文化の違いなどについて
 - ・ 自分たちにできることはなにか
- ⑤ 最後に「もしあなたがルビナだったら何が一番幸せですか？」と問いかける。それはルビナだけでなく、参加者自身や日本の子どもたちなど、誰にとっても幸せなことであることを感じ、家事使用人として働く少女が遠い国の知らない人、ではなく同じ地球に生きる仲間であること、自分ごととして認識する。

書籍名：わたし8歳、職業、家事使用人。（合同出版）

著者：日下部尚徳（著） 藤崎文子・京井杏奈・藤岡恵美子（執筆協力）

バングラデシュには、「家事使用人」と呼ばれる子どもが42万人います。よその家に住み込み、雇い主やその子どもたちのお世話をします。他人の家の家事をする多くの子が10代の少女たちです。中にはまだ10歳に満たない女の子もいます。世界にいる1億5200万人の児童労働者のうち、家事使用人として働かなければならない女の子の ぎびしい現実、直面する問題や課題、私たちに今なにができるのかを紹介します。



特定非営利活動法人
シャプラニール＝市民による海外協力の会
169-8611 新宿区西早稲田2-3-1 早稲田奉仕園内
Tel: 03-3202-7863 www.shaplaneer.org